



## 子育てを楽しみたいならスマホより本を

このタイトルは、東北大学教授の川島隆太氏の研究結果を由来としています。前回の51号に読み聞かせについてお知らせしましたが、川島教授は、読み聞かせの効果を研究されています。川島教授は、子供は、読み聞かせをするほど言語発達は促進され、問題行動が減少すると報告しています。言語発達については、3歳から6歳までの平均



4歳半程度の子供たちの語彙を評価した結果、初回時、参加者平均で約 63 カ月 (5 歳 3 カ月) 相当であった語彙は、8 週間後に約 69 カ月 (5 歳 9 カ月) 相当になっていました。2 回の検査の間の 8 週間というのは約 2 カ月です。ですから、およそ 2 カ月で 6 カ月相当の語彙の伸びが見られたということです。

次に、幼児の聞く力です。「聞く力」を科学的に計測するために、「トークン・テスト」と呼ばれる課題を用い、平均点が上昇し、子供の聞く力が上がったことを証明したそうです。さらに、読み聞かせをした時間(分)と親のストレスの変化の関係をデータ解析した結果、「読み聞かせの時間が多いほど、母親の子育てストレスが低くなる」という結論になったそうです。他にも、「CBCL」というアンケートを用いて子供の問題行動の程度を母親から聴取し、8週間の読み聞かせの前後で、子供の内向きの問題、つまり、子どもの不安や抑うつなどの問題が減っていることがわかったそうです。目の前の子供を落ち着かせようとスマホを与えるのではなく、読み聞かせをすることにより、母親のストレスは低下し、子どもの問題行動が減少したことから、母親と子供の関係によい変化が生じていたのではないかと考えられます。

## 一万円から消えるすごい人

「福沢諭吉」と聞いてすぐに思いつくことはなんですか?と聞くと「一万円の人」と答える人も多いことでしょう。来年は、渋沢栄一に交代することになっています。



この福沢諭吉ですが、「学問のすすめ」「西洋事情」などを書いた人です。もともと中津藩の武士でしたが、塾を開きます。そして、役人が太平洋を渡るときの通訳として働きます。その働きぶりが優秀だったので、明治政府から勧誘されますが、断ります。その後、現在の慶応義塾大学をつくったり、アメリカやヨーロッパに渡って経験したことを本に書いて紹介したりしました。諭吉は、その本の中で保険制度を日本に紹介しました。「人の生涯の請合」「火災請合」「海上請合」など、この本で紹介した後、現在の明治安田生命保険相互会社、損害保険ジャパン株式会社、東京海上日動火災保険会社などの前身ができました。諭吉はいち早く西欧に学び、多くの文明に触れ、日本に持ち帰りました。渋沢栄一もヨーロッパで株式会社の作り方を学んで日本に持ち帰り日本の礎を築きました。幕末から明治にかけて活躍した人たちは、「日本のためにこれは活かせる!」という発想があったのです。帯西で大切にしている「自己有用感」は、誰かのために自分が役立つ喜びを味わうことができる気持ちです。これからの時代に備えて、本校にもいる小さな諭吉や栄一たちを大切に育てていきたいと思えます。